支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度
		小学校における単元テストの音声教材化(マルチメディアDAISY化)
授業について	教科名等	■国語 ■社会 ■算数/数学 ■理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術·家庭 ■体育/保健体育□特別の教科 道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導□その他の教科 □その他()
	単元·題材名	
	授業の目標	タブレット端末の使い方に慣れる。 音声教材化(マルチメディアDAISY化)されたテストを使って単元テストを受ける
	学力の3要素	■「知識及び技能」 □「思考力・判断力・表現力等」 □「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校•学部•学年•人数	□通常の学級 □通級による指導 ■特別支援学級 □特別支援学校 □就学前 ■小学生 □中学生 □高校生以降 □特定されない (5)年 (1)人
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱·身体虚弱 □言語障害 ■自閉症 □情緒障害 ■LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の困難さ	□見ること □聞くこと □話すこと ■読むこと ■書くこと □動くこと □コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること □落ち着くこと・集中すること □概念(時間、大きさ等)を理解すること □学習(計算、推論等)すること □その他 ・ひらがなを読むことはできるが、読み間違えることがある。(カタカナは少し、漢字は1年学習程度を読むことができる。) ・読んでいる場所がわからなくなる ・勝手読みをしてしまう ・漢字を覚えるのが苦手(定着しない) ・板書が苦手(どの部分を写すのか、漢字で書いてあると意味もわからなくなる) ・つまった文字や接続詞・接続語などが苦手
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(□B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 □C2認知発達支援 □C3社会生活支援) D実態把握支援(□D1実態把握支援)
		合理的配慮として、国語・算数・社会・理科・体育/保健の単元テストの音声教材化(マルチメディアDAISY化)を行う。 マルチメディアDAISY教材は授業ですでに活用していたため、音声教材化にも用いた。
	使用した支援機器等教 材の名称と画像	製作ソフト: PLEXTALK Producer(シナノケンシ社製) 使用機器: ScanSnap(Fujitsu製) 音声教材化(マルチメディアDAISY化)されたテスト
授業展開	授業展開・支援の手立て	製作ソフトはPLEXTALK Producer(シナノケンシ社製)を用い、①事前にScanSnap(Fujitsu製)を活用したテキスト・画像の編集担当、②製作ソフト上での編集(レイアウト・ルビの設定・アクセント・フレーズ設定等)担当、③読み・図や表の表現・縦書き横書き等のチェック担当という3つの分業体制で効率的に取り組み、合計作業時間は国語・社会・理科は約1時間半、算数は約1時間で仕上げることができた。データは学校が長期休みの期間に事前に受け取った。製作したデータは小学校に持参し、メディアプレイヤー(iTunes)経由でタブレット端末(iPad)にファイルを追加した。
効果 ・評価	子供の様子や変容および授業の評価	ルビ付のみの単元テストは50~60%ほどの正答率であったが、音声教材化(マルチメディアDAISY化)されたテストを活用すると、60%~80%の正答率となった。